

<農業生産条件の強化（自己施工）に取り組む事例>

○自己施工で農道コンクリート舗装

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	かみましきぐんやまとちよう つるそこ 熊本県上益城郡山都町 鶴底			
協 定 面 積 21ha	田 (100%) 米	畑	草地	採草放牧地
交 付 金 額 401万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	農道、水路改修費		15%
		共同機械購入費		21%
		担い手育成費ほか		14%
協 定 参 加 者	農業者 24人、機械利用組合（構成員 4人）			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

鶴底集落は、熊本県の東部、阿蘇南外輪山の麓に位置しており、中山間地域の気候と環境等の特性を活かして水稻、高冷地野菜、栗などの栽培が行われている一方、近年では農業者の高齢化や後継者不足による耕作放棄地の発生が懸念されていた。このため、平成12年度から中山間地域等直接支払制度に取り組み、農業生産活動や多面的機能の維持等を行ってきたところである。

本制度の取組によって集落の活性化が図られてきたところであるが、当該地区における新規就農者は平成12年度からの10年間で僅か2名に留まっており、高齢化はさらに進行している。よって、今後の農業生産活動等の継続のため、労力を軽減し安全に農作業が行える環境整備を図ることを目標として、第3期対策に継続して取り組むこととなった。

3. 取組の内容

今後の農業生産活動等の継続のための条件整備として、町の補助も活用した自己施工による農道舗装及び水路の改修を進めることとしている。また、イノシシによる被害も年々増加していることから、効率的な交付金の活用のため、団地化による電柵設置を行うこととしている。



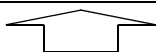
【農道舗装自己施工】



【団地化による電柵設置】

〔集落の将来像〕

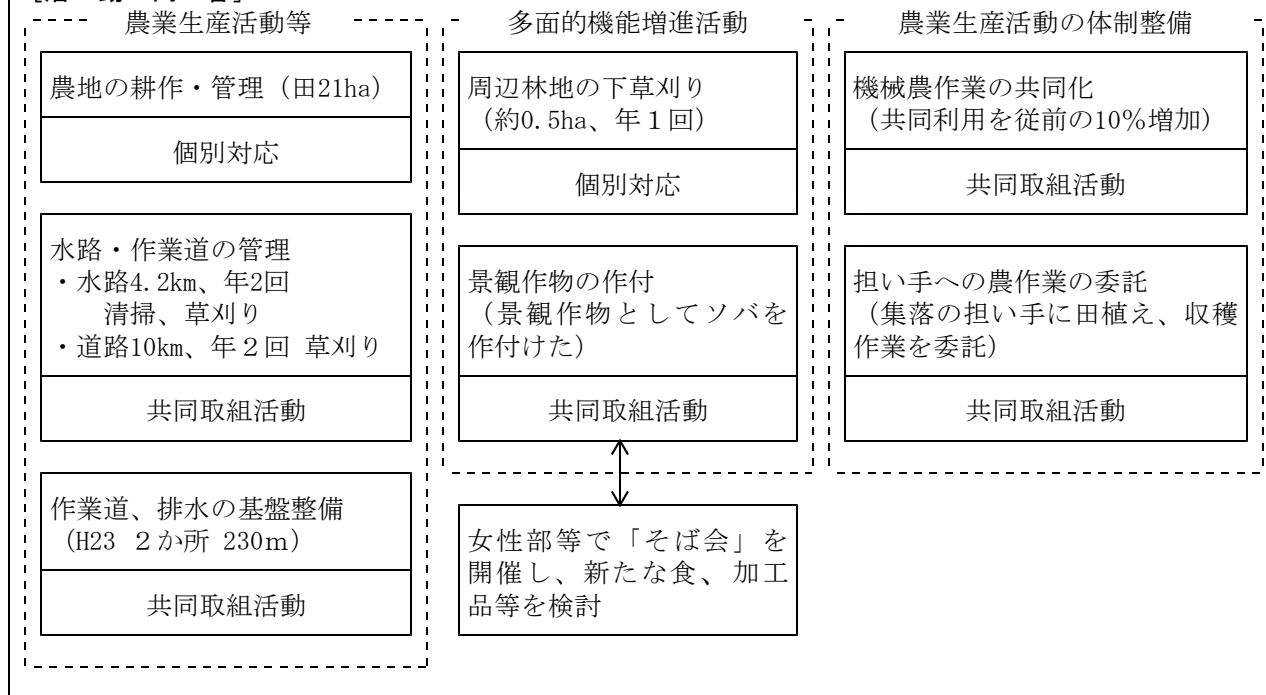
- 地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備



〔将来像を実現するための活動目標〕

- 機械・農作業の共同化、営農組織の育成
- 共同で支えあう集団的かつ持続可能な体制整備

〔活 動 内 容〕



4. 今後の課題等

毎年できる範囲で自己施工の農道舗装を行い、管理労力の軽減を図っている。しかしながら今後の担い手不足は確実に予想されるため、営農組織での取組が必要不可欠であることから、営農組織で採算運営できる体制整備を行う必要がある。

〔第2期対策の主な成果〕

- 共同機械の拡充、更新（コンバイン、畦塗り機等）
- 担い手への農作業委託（3ha）